

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成27年8月27日 (2015.8.27)

【公表番号】特表2011-521654(P2011-521654A)

【公表日】平成23年7月28日 (2011.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2011-030

【出願番号】特願2011-512010(P2011-512010)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 7/04 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/187 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 37/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 7/04

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 K 39/187

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 37/00

A 6 1 P 31/12

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年7月8日 (2015.7.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

医薬調製物（例えば、ワクチン）中でのレプリコンの使用のために、レプリコンは、裸の RNA として使用してもよい。このことは、RNAse による分解に対する RNA の保護、例えば、RNA キャッピングによる保護、を必要とする。或いは、ペスチウイルスレプリコンを、適当な微粒子送達ビヒクルと伴わせてもよい。これらは、RNA の保護を促進し得る一方で、RNA がそのコードタンパク質を翻訳し得る細胞への RNA の送達の効率増大を促進し得る。この目的のために、RNA は、後者のタイプを作製する時に、微粒子送達ビヒクル中に封入するか、又は、予め形成された粒子中に添加する。それぞれの場合において、RNA 及び粒子の相補的電荷を利用することにより、RNA の粒子との相互作用を増加させることができる。或いは、RNA は、ポリエチレングリコール修飾粒子表面等のリンカーを介して、粒子と物理的に結合させることができる。RNA 送達の可能性を有するかかる粒子ビヒクルの例は、リボソーム、マイクロ粒子、ナノ粒子又はナノカプセルである。薬物担体としてのリボソーム、マイクロ粒子、ナノ粒子又はナノカプセルは、当技術分野において周知であり、これらは、本発明において、微粒子送達ビヒクルと考えられる。